

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 52-031836

(43)Date of publication of application : 10.03.1977

(51)Int.Cl.

A61K 7/00

(21)Application number : 50-108440

(71)Applicant : YOSHIDA RYUZO

(22)Date of filing : 05.09.1975

(72)Inventor : YOSHIDA RYUZO
ITO TOMOHARU
KODO AKIYOSHI

(54) BEAUTY PACKS CONTAINING SPIRULINA PLATENSIS

(57)Abstract:

PURPOSE: Cosmetics which activate metabolic activity of the skin by the absorption of water and nutrients in the keratinous layer thereof.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office



① 日本国特許庁

公開特許公報

特 許 願

昭和50年9月1日

特許庁長官 殿

1. 発明の名称

スビルリナによる美容パック剤

2. 発明者

(特許出願人に同じ)

3. 特許出願人

ビヨウケン/アシヤフナトチョウ
兵庫県芦屋市船戸町10番7号 郵便番号659
ヨシタリョウ ソウ
吉田 隆三 (印)
外2名

4. 添付書類目録

(1) 明細書 1通



50 108440

明 細 書

1. 発明の名称

スビルリナによる美容パック剤

2. 特許請求の範囲

スビルリナ、或はその消化酵素分解物を水溶性展着剤に溶解または分散した美容パック剤

3. 発明の詳細な説明

一般に美容のためのパック剤は、水溶性展着剤、例えばカルボキシメチルセルローズ、ポリビニールアルコール、ポリビニールピロリドン、ソルビトル、ポリ酢酸ビニルエマルジョン等の水溶性または水分散性のポリマーに適当な美容に寄与する賦形剤や添加剤を加えたものが使われ、市販されている。

しかし、これらは必ずしも美顔の本質的な意味を有しない。本発明は美容の本質的な機構より開発した美顔パック剤である。更に詳しくは、スビルリナ、或はその消化酵素分解

① 特開昭 52-31836

④ 公開日 昭52.(1977) 3.10

② 特願昭 50-108440

② 出願日 昭50.(1975) 9.5

審査請求 未請求 (全4頁)

庁内整理番号

686546

⑤ 日本分類

J/ B0

⑤ Int.Cl²

A61K 7/00

物を水溶性展着剤に溶解または分散した美顔パック剤である。

従来のフェースパックの美容原理は

- (1) パックが次第に乾燥するに従つて皮膚に緊張を与え、皮膚の温度が上昇し血行がよくなる。
- (2) 皮膚面から蒸発する水分がパック膜の下に滞留し、これが表皮角質層を柔軟にし、皮孔を拡げることになるので、パック中の有効成分が皮膚に吸収され易くなる。
- (3) パック剤の吸着作用により皮膚表面の清浄が行なわれる。

などが通念で、フェースパックには液状、クリーム状及び粉末状のものが市販されている。

本来、人間の皮膚は皮膚自体に依る呼吸作用と新陳代謝を通じて体温を保持し、同時に老化の防止作用をも行っているが、俗に言う皮膚の衰えは角質層の脂肪様物質が失われる為とされていた。しかし、最近になつてそれ

は、角質層に含まれる或る種の水溶性物質が失われる為であることが明らかとなつた。この物質を自然保湿因子と呼んでいるが、これが角質層の水分保持に重要な働きをして居りその主要成分として、グリシン、チロシン、ロイシン、バリン、スレオニン、アラニン、アルギニン、アスパラギン酸、グルタミン酸、セリン等の如き遊離アミノ酸及びピロリドンカルボン酸などが証明された。

本発明に用いるスピルリナはラセン藻の一種であつて、現在30種類位あり、中には有毒なものもあり、また完全に無毒で人間の栄養に不可欠の必須アミノ酸、ビタミン、その他健康を維持するための成分を沢山含むものを持つ藻類もある。この中でも、望ましくはアフリカのチャド湖のプラテンシス種、またはメキシコのテスココ湖で培養されているマキシマ種は別表1.2の如く、栄養豊富で、国立栄養研究所で食品認可している完全に無毒の高蛋白、高ビタミンのものが好適である。

表 1

スピルリナ有機成分表

有機成分	スピルリナ
蛋白質	62～68%
炭水化物	18～20%
脂 肪	4～6%
ビタミン類	プロA.B.B2.B6. B12.C 葉 緑 素 フィコチア ン クサントフィル カ ロ チ ン

表 2

スピルリナの粗蛋白質中のアミノ酸組成分析値

アミノ酸類	アミノ酸含有率(%)
イソロイシン	5.26
ロイシン	8.11
リジン	4.65
メチオニン	2.06
シスチン	0.93
フェニルアラニン	4.09
チロシン	3.81
スレオニン	4.31
トリプトファン	1.87
バリン	6.36
アルギニン	8.53
ヒスチジン	1.61
アラニン	6.43
アスパラギン酸	11.29
グルタミン酸	18.05
グリシン	4.58
セリン	4.35
プロリン	3.67

この他に表1の如くスピルリナには全量の4%～6%の脂肪分が含まれるが、その4%がガンマー・リノレイン酸である。

A. WATANABE

SCHWEIZERISCHE ZEITSCHRIFT FÜR HYDROLOGIE

(Vol. 32 (1970) (2) 566.)

このガンマー・リノレイン酸はあらゆる藻類の中でスピルリナのみに含まれて居り、その特性として人体の皮膚表面毛細血管を拡げる作用がある。

これ等の諸成分によつて、バツク剤を塗布するとまず皮膚の毛細血管がガンマー・リノレイン酸によつて拡げられ、次に美顔に必要な栄養成分(表1.2)が吸収され、美容の作用を促す。

この様にスピルリナは豊富な有効成分を持つているが、多細胞で、細胞膜に覆われて居り、アルカリ性食塩水中では安定である。しかし中性または酸性の水にゆるやかに溶解する。従つてバツク剤の水溶性展着剤の水によ

つて加水分解されてアミノ酸にするか、或は消化酵素で完全に消化加水分解して蛋白質を有効なアミノ酸にしてパック剤に混入し、美容効果を与えることも出来る。

水溶性展着剤としてはカルボキシメチルセルローズ、ポリビニールアルコール、ポリビニールピロリドン、ポリ酢酸ビニールエマルジョン、澱粉、糖の酵素分解物のポリグルコースがあるが、就中、ポリビニールピロリドン及びデキストランの如きポリグリコール類は共に人工血漿として使われて、殆んど中性で皮膚に対し完全無毒であり、この目的のための最も望ましいものである。

処方例として、表3に記す。

表3 処方例

成 分	実施1	2	3	4	5
15%ポリビニールピロリドン水溶液	14部		15	15	
15%デキストラン水溶液		8	5		
15%プルラン水溶液		8			
15%カルボキシメチルセルローズ水溶液					3
15%ポリビニールアルコール水溶液					15
30%の水溶性分散物 スビルリナ プラチンシス	20				
30%の水溶性分散物 スビルリナ マキシマ		20		10	20
スビルリナの酵素分解物 の20%水分散溶解物			20	10	
グリセリン	3	2	5	4	3
アルコール	3	2		4	3
中性界面活性剤	適量	適量	適量	適量	適量
香 料	適量	適量	適量	適量	適量
防 腐 剤	適量	適量	適量	適量	適量

スビルリナの酵素分解物は、スビルリナを3倍水で攪解機でコロイド状に攪解した後37°Cに保ちしベブシン1.0%を加え再び攪解の後2時間保持し、分解を完結せしめ、後に100°Cに加熱し、酵素を不活性にしたものを用いる。

このパック液を顔面或いは全身に塗布すると約20分後に膠化が始まり、約40分後には薄い皮膜となり容易に体面より剝離する事が出来る。塗布時間は長時間に及ぶ必要はなく、塗布後40～50分位で充分効果があり剝離後の皮膚はスビルリナの有効成分を吸収し新陳代謝は旺盛に、皮膚呼吸は活発になり角質層にはみずみずしいはりと、なめらかさを与えて美しい肌となり、その効果は回を重ねるにつれて長期持続する。

5. 前記以外の発明者

ビウゴケン/アマガサキ/ヒガノノダチヨ
兵庫県尼崎市東園田町6の66の1

伊 藤 知 治

オオサカフミノオンサクラ オカ
大阪府箕面市桜ヶ丘4丁目1番9号

黄 堂 明 美

特許出願人 吉 田 隆 三



手数料補正書

特開 昭52-31836(4)

昭和51年2月25日 提出

(2000円)

特許庁長官 殿

1. 事件の表示 昭和50年特許出願オ108440号
2. 発明の名称 スビルリナによる美容パック剤
3. 補正に係る書類名 特許願
4. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 ヒョウゴケン アシヤシ フナトゾウ
兵庫県 芦屋市 鉛戸町10番7号 郵便番号 659
氏名 ヨシダ リュウゾウ
吉田 隆三

5. 補正命令の日付 昭和51年1月10日

